



男性にもお勧め 日傘で暑熱対策を!



環境省による「日傘による暑さ対策効果を定量的に明らかにするための、人の生理・心理反応に及ぼす効果の検証実験」等により、日傘の暑熱対策効果が確認されました。



日傘による暑さ対策効果を定量的に明らかにするための 人の生理・心理反応に及ぼす効果の検証実験

人工太陽が装備された人工気象室で「帽子」「通常日傘」「遮熱日傘」を使い、生理反応（心拍数、体重減少量、皮膚温及び耳内温）と主観申告（温冷感、快適感、湿度感、発汗感、気流感、満足感、許容度、日射感、運動強度）を測定しました。

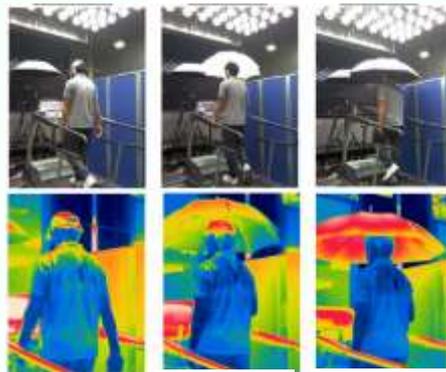
その結果、生理反応と主観申告の両方において、**3つの対策の中で遮熱日傘の効果が最も高く、次に通常日傘の効果が高いことが分かりました。**遮熱日傘は、帽子に比べ汗の量（※）が17.3%減少しました。

※ 日差しの強い屋外で健康的に活動するためには、汗をかいて体を冷やす必要があります。しかし、汗は血液から作られるため、汗をたくさんかくと体調を崩す場合があります。

（注1）遮熱日傘とは、日射を99%以上カットする日傘。

（注2）不感蒸泄とは、発汗以外の皮膚および呼吸からの水分喪失をいう。

実験時の熱画像



帽子

通常日傘

遮熱日傘

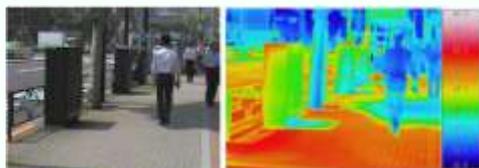
30℃ 80℃



夏季の街路を歩く 歩行者の熱ストレス調査

環境省が、夏季の街路約1kmを約20分歩行するケースにおける歩行者の熱ストレス（※）を調査した結果、日傘は熱ストレスを低減することが判明しました。

※ 深部体温の上昇度と累積発汗量を熱ストレス指標として評価



日当たりの良い歩道
気温 34℃
路面温度 50℃



日傘無料貸出イベントでの 暑さ指数 (WBGT) 測定結果

環境省が「日傘無料貸出イベント」で暑さ指数 (WBGT) を測定した結果、日傘には1~3℃程度のWBGT低減効果があると確認されました。日傘をさしてWBGT測定値が3℃下がり、熱中症警戒レベル（表参照）が1段階下がった例もありました。

日向と日傘下のWBGT表示状況
左：日向 WBGT30℃
右：日傘下 WBGT27℃



涼しさを持ち歩こう!

「遮光率の高い日傘」がおすすめ



日傘は、個人で取り組める暑熱対策として非常に有効です。環境省の実験では、日射を遮る効果が高い日傘は遮熱効果も高いことが実証されました。「遮光率90%以上」の日傘が熱中症対策に効果的です。

使用したことがない方も、今夏は日傘デビューして、涼しさを持ち歩きましょう!



日向と木陰はWBGTが違うイメージ
環境省 まちなか暑さ対策ガイドライン より

栃木県気候変動適応センター【事務局：栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください。

(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>)

HP



X
(旧 Twitter)